日合商通信

Vol.158
2026年
10月後半号

Japan Plywood Wholesalers Association

発行所：日本合板商業組合
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-5-4
TEL：03-5256-9080
https://www.nichigosho.net/
e-mail：jpwa@oboe.ocn.ne.jp

TOPIC 1 住宅用蓄電池の新商品相次ぐ

今年度に入り蓄電池各社による新商品発売、また、発表が相次いでいる。太陽光発電の自家消費の大きな流れ、自然災害時のバックアップ、さらには来年度スタートするＧＸ ＺＥＨの蓄電池の要件化などを受け、さまざまな特徴を持つ商品が打ち出されている。

オムロン ソーシャルソリューションズは、全負荷型ハイブリッド蓄電池「KPTP-Bシリーズ」を2027年1月から発売すると発表した。最も大きな特徴が、従来商品の6ユニットから3ユニットで済むシンプルなシステム構成を実現したこと。PVユニットとトランスユニットに相当する機能をパワコンに、マルチ蓄電システム用ゲートウェイに相当する機能を全負荷分電盤にそれぞれ集約したことで実現した。

シャープは従来商品の「JH-WB2621」を見直し、蓄電池容量１kWhあたりの体積を0.008㎥／kWhと同社従来品比で約55％削減、設置に必要な面積も0.19㎡と同約35％削減した。さらに蓄電池量1kWhあたりの質量も同約35％低減し、業界トップクラスの軽量化を図った。

一方、テスラは2026年8月に「Powerwall 3」の発売を開始した。太陽光発電用のパワーコンディショナを内蔵し設備数の削減、施工のシンプル化に寄与する。コンパクトな外形で重量は約130kgだ。一方で、単機能型として既設の太陽光発電システムへの追加設置や、単独での設置も可能だ。

電気代の上昇、自然災害の多発、国のエネルギー政策もあり蓄電池の市場はさらに活発化していきそうだ。

TOPIC 2 パナソニック ホームズら中山台でモビリティ実証開始

パナソニック ホームズや宝塚市などで構成する公民連携組織「中山台エリアプラットフォーム（中山台APF）」が同市の「中山台ニュータウン」で、トヨタ自動車の電気自動車「e-Palette（イーパレット）」を活用したモビリティサービスの実証実験を開始した。

同ニュータウンは、兵庫県宝塚市北東部に広がる約220haの大規模住宅地で、高度経済成長期の1970年代から大阪・神戸のベッドタウンとして開発された。

現在は開発から半世紀以上が経過し、人口減少や少子高齢化、施設の老朽化が顕著になっている。パナソニックホームズは2025年、地区内の施設・用地を取得するとともに宝塚市と包括連携協定を締結し、公民連携による街の再生事業に着手した。26年3月には企業や教育機関、医療福祉団体など多様な主体が参画する「中山台APF」（代表幹事・パナソニック ホームズ、幹事会員・宝塚市）を発足させ、街の活性化に向けた議論を重ねてきた。

中山台ニュータウン内の坂道を試運転する「e-Palette」

日常の移動手段の確保という課題に対し、単なる代替バスの運行にとどまらず、街の賑わいを取り戻すモビリティとして投入するのが「e-Palette」だ。実証実験ではネッツトヨタ神戸の協力を得て車両をリースで導入。現在ニュータウン内を走る商業施設と各停留所を結ぶ買い物バスに伴走する形で、週１、２回試験走行する。定員は着座７人で運賃は無料。急坂や狭小道路での走行適性や所要時間、乗り心地を確かめ、将来的な自動運転導入も見据えた運行データの収集を進める。

新 刊 省エネ基準の義務化へ 関連法令を一冊に集約
創樹社
必携 住宅・建築物の省エネルギー基準関係法令集 2025
住宅・建築に関わる企業、地方自治体、性能評価機関などに向けた必携の書